



令和二年 葉月

城北中だより

城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

生徒数

| | |
|--------|------|
| 1年 | 156名 |
| 2年 | 173名 |
| 3年 | 156名 |
| 特別支援学級 | 8名 |
| 全校生徒数 | 493名 |

世界があなたを待っている ～今から、ここから～

校長 玉崎 芳行

梅雨明け後の青空や白雲は、いつもの夏とそう変わらないが、今年は、諸般の事情で、出かける時間も機会も減った。しかし、限られた時間は大切にしたい。必然、家の中で出来ることに心が向いた。書籍や文献などの整理整頓に着手したのも束の間、図らずも、懐かしい写真が出てきてしまった。もはや、整理整頓の四文字は消えてしまった。学生時代や社会人時代の旅先で収めたもので、不思議とその頃の心情や状況が鮮やかに蘇ってきた。

イタリアのアッピア街道に立ち、悠久の時の流れに思いを馳せた。古代人の英知や歴史の荘厳さに鳥肌が立ち、伝統や文化への愛着や誇りに対する認識を深めた。

スイスのレマン湖の畔では、バス待ちの車椅子の御婦人のもとに、バスが到着するやいなや一般市民の方々が集まり、車いすの御婦人をリフトしバスに乗せ、何事もなかったかのようにそれぞれが散って行った。そのあまりにも自然なホスピタリティーに心が震えた。

阿蘇の草千里ガ浜、北海道の富良野、高知の足摺岬などは、一秒の刻みが穏やかに感じた。我が国にも、素晴らしい風景、伝統、人情、文化が脈々と流れている。

社会科教員として、史実を史実として、自分自身で確かめるために、沖縄県の摩文仁、広島県の広島、鹿児島県の知覧にも足を運んだ。知覧では、ある資料館に、おそらく高校総体（インターハイ）を終え帰路の途中と思われた、真っ黒に日焼けし精悍な顔つきのサッカー部員が40名程訪れていた。入館前は賑やかな立ち居振る舞いをしていた彼らは、入館し資料に目を向け始めると、いつしか無言となった。気が付くと、嗚咽する若者、大粒の涙をこぼす若者がいた。その姿は、今でも私の脳裏に焼き付いて離れない。

己の目で見、耳で聴き、肌で感じたことは、いつまでも色褪せない。体験や経験は、その後の自分の指針となったり、生き様に関わってきたりすることもある。

チーム城北のかけがえのないあなたには、あなたが未だ知らない魅力あふれる世界が待っている。そして、あなたには、その魅力あふれる世界に羽ばたく無限の可能性が秘められている。そんなあなたを誇らしく思うと同時に羨ましく思う。

第2学期が始まる。再び仲間とともに、それぞれの無限の可能性を磨く日々が始まる。今から、ここから。